

都市部在住の乳幼児の口腔発達状況と食生活に関する研究

1歳2か月児歯科健診結果から

ソガベナツコ マルヤマリエコ ナカムラフサコ
 曾我部夏子^{*,2*} 丸山里枝子^{*} 中村 房子^{3*}
 ツチャリツコ イノウエミツコ ゴセキソネマサエ
 土屋 律子^{3*} 井上美津子^{4*} 五関-曾根正江^{*}

目的 乳幼児期の栄養摂取は、個々の子どもの成長・発達段階に合わせて適切に対応することが大切である。そこで、今回、乳幼児期の食生活状況について、乳歯萌出状況と調理形態・調理方法などとの関連について検討を行った。

方法 東京都K区保健所および各保健センターにおいて、1歳2か月児歯科健診を受診した455人に、歯科医師による歯科健診と保護者への自記式調査票を用いて、離乳食の開始時期、離乳食の進行の目安、現在の食事の調理形態などについて調査を行った。記入漏れがあった18人および在胎期間が36週未満の出生児17人を除く420人を解析対象とした。

結果 離乳食の開始時期は、生後5,6か月齢頃が81.4%と最も多く、離乳の進め方の目安は、「月齢」と回答した者が最も多かった(71.2%)。乳歯萌出状況により、前歯上下8本(乳中切歯4本と乳側切歯4本)が生え揃っていない段階(ステージⅠ:27.4%)、前歯上下8本が全て生え揃っているが奥歯(第一乳臼歯)がまだ生え揃っていない段階(ステージⅡ:61.9%)、奥歯(第一乳臼歯)が上下4本すべて生え揃っている段階(ステージⅢ:10.7%)の3段階に分類した。「おかずの固さの目安」は、ステージⅠ,Ⅱ,Ⅲすべてにおいて「歯ぐきでかみつぶせる」がそれぞれ53.5%,54.4%,40.0%と最も多かったが、まだ第一乳臼歯4本が生え揃っていないステージⅠ,Ⅱにおいて、「奥歯でかみつぶせる」と回答した者が、それぞれ14.0%,15.1%も認められた。さらに、「大人と同じ固さ」と答えた割合が、ステージⅠ,Ⅱ,Ⅲで、それぞれ7.0%,9.7%,24.4%であった。また、調理の味付け(塩味,しょうゆ味)については、「大人と同じ」と答えた割合がステージⅠ,Ⅱ,Ⅲで、それぞれ13.2%,17.3%,22.2%であった。

結論 今回の調査結果により、乳歯萌出状況は個人差が大きく、個々の口腔の発達段階・咀嚼機能を把握せずに、調理形態・調理方法が進められていることが推察され、今後の食育支援の必要性が示された。

Key words : 乳幼児, 乳歯萌出, 離乳食, 口腔機能, 食習慣, 食形態

* 日本女子大学家政学部食物学科栄養学研究室

2* 駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科

3* 葛飾区保健所健康推進課

4* 昭和大学歯学部小児成育歯科学教室

連絡先: 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

日本女子大学家政学部食物学科栄養学研究室

五関-曾根正江